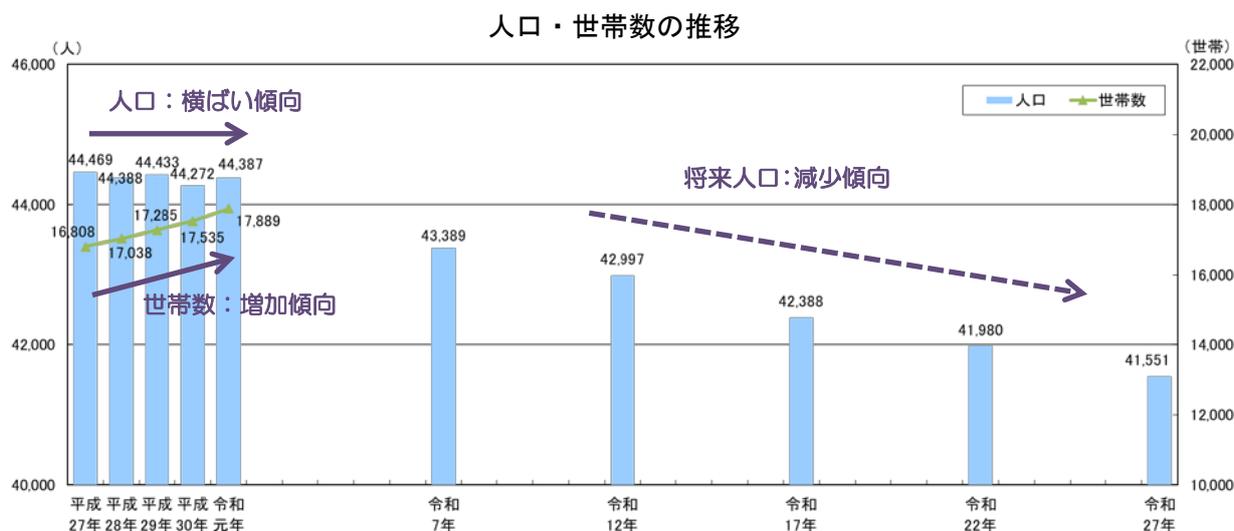


2. 地域の概況

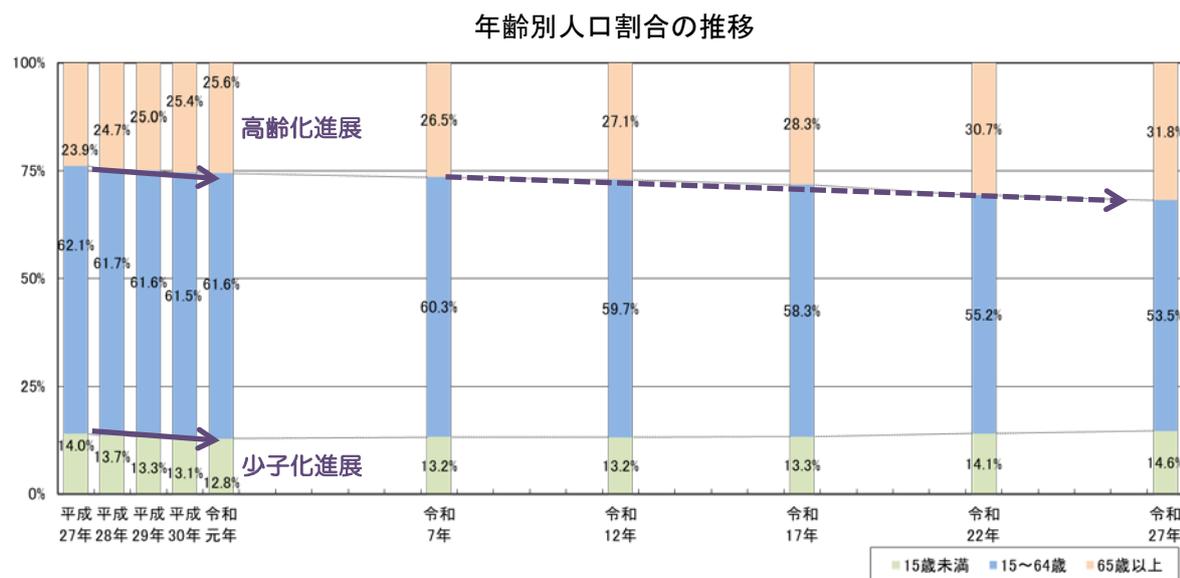
2-1 人口動向

2-1-1 市全体の人口、世帯数、年齢別人口割合

- 人口は平成 27 年以降増減を繰り返し、ほぼ横ばいの傾向となっている。
- 世帯数は経年的に増加している。
- 国立社会保障・人口問題研究所による将来の推計人口は減少傾向となっており、令和 27 年には 41,551 人と、現在の本市の人口からみると約 3,000 人減少すると予想されている。
- 年齢別人口割合は、徐々に少子高齢化が進んでおり、将来においても高齢者割合は増加していくと予想されている。



※資料：令和元年まで：住民基本台帳（各年 4 月 1 日）
 将来：国立社会保障・人口問題研究所による推計人口



※資料：令和元年まで：住民基本台帳（各年 4 月 1 日）
 将来：国立社会保障・人口問題研究所による推計人口

2-1-2 小学校区別の人口、年齢別人口割合

- 全年齢の小学校区別の人口は弥生小学校区が最も多く、日の出小学校区や桜小学校区など北部地域を中心に多くなっている。
- 南部地域や東部地域の人口は減少傾向となっている。
- 14歳以下の人口も弥生小学校区が最も多く、北部地域を中心に多くなっているが、人口、割合ともに全体的に減少傾向となっている。
- 65歳以上の高齢者人口も弥生小学校区が最も多く、北部地域を中心に多くなっており、人口、割合ともに増加傾向となっている。
- きんちゃんバスを無料で利用できる75歳以上人口も同様の傾向となっており、人口、割合ともに増加傾向となっている。

小学校区別人口の推移

全年齢		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	H27⇒R元・増減
北部	白鳥	5,667	5,625	5,639	5,653	5,709	+42
	弥生	11,084	11,134	11,157	11,215	11,282	+198
	桜	7,771	7,769	7,838	7,757	7,757	-14
	日の出	8,240	8,276	8,367	8,366	8,464	+224
南部	大藤	3,183	3,144	3,129	3,094	3,051	-132
	栄南	2,957	2,902	2,820	2,792	2,760	-197
東部	十四山東部	3,220	3,208	3,182	3,147	3,148	-72
	十四山西部	2,347	2,330	2,301	2,248	2,216	-131
市全体		44,469	44,388	44,433	44,272	44,387	-82
14歳以下		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	H27⇒R元・増減
北部	白鳥	725	694	687	680	678	-47
	弥生	1,485	1,494	1,432	1,410	1,399	-86
	桜	1,165	1,130	1,121	1,093	1,068	-97
	日の出	1,488	1,436	1,415	1,383	1,343	-145
南部	大藤	383	375	364	363	358	-25
	栄南	271	252	236	240	241	-30
東部	十四山東部	379	369	370	354	344	-35
	十四山西部	312	311	295	268	257	-55
市全体		6,208	6,061	5,920	5,791	5,688	-520
65歳以上		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	H27⇒R元・増減
北部	白鳥	1,602	1,640	1,672	1,722	1,745	+143
	弥生	2,679	2,757	2,804	2,825	2,840	+161
	桜	1,665	1,731	1,751	1,770	1,784	+119
	日の出	1,336	1,401	1,446	1,481	1,510	+174
南部	大藤	893	935	947	950	962	+69
	栄南	852	865	874	875	875	+23
東部	十四山東部	933	954	962	975	981	+48
	十四山西部	664	677	671	666	662	-2
市全体		10,624	10,960	11,127	11,264	11,359	+735
75歳以上		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	H27⇒R元・増減
北部	白鳥	676	722	789	863	924	+248
	弥生	1,137	1,224	1,310	1,394	1,456	+319
	桜	791	832	872	900	915	+124
	日の出	496	527	582	635	706	+210
南部	大藤	392	402	416	430	441	+49
	栄南	429	435	456	458	465	+36
東部	十四山東部	441	459	461	473	487	+46
	十四山西部	330	332	329	341	342	+12
市全体		4,692	4,933	5,215	5,494	5,736	+1,044

※資料：住民基本台帳（各年4月1日）

小学校区別年齢別人口割合の推移

14歳以下		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	H27⇒R元・増減
北部	白鳥	12.8%	12.3%	12.2%	12.0%	11.9%	-0.9%
	弥生	13.4%	13.4%	12.8%	12.6%	12.4%	-1.0%
	桜	15.0%	14.5%	14.3%	14.1%	13.8%	-1.2%
	日の出	18.1%	17.4%	16.9%	16.5%	15.9%	-2.2%
南部	大藤	12.0%	11.9%	11.6%	11.7%	11.7%	-0.3%
	栄南	9.2%	8.7%	8.4%	8.6%	8.7%	-0.4%
東部	十四山東部	11.8%	11.5%	11.6%	11.2%	10.9%	-0.8%
	十四山西部	13.3%	13.3%	12.8%	11.9%	11.6%	-1.7%
市全体		14.0%	13.7%	13.3%	13.1%	12.8%	-1.1%
65歳以上		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	H27⇒R元・増減
北部	白鳥	28.3%	29.2%	29.7%	30.5%	30.6%	+2.3%
	弥生	24.2%	24.8%	25.1%	25.2%	25.2%	+1.0%
	桜	21.4%	22.3%	22.3%	22.8%	23.0%	+1.6%
	日の出	16.2%	16.9%	17.3%	17.7%	17.8%	+1.6%
南部	大藤	28.1%	29.7%	30.3%	30.7%	31.5%	+3.5%
	栄南	28.8%	29.8%	31.0%	31.3%	31.7%	+2.9%
東部	十四山東部	29.0%	29.7%	30.2%	31.0%	31.2%	+2.2%
	十四山西部	28.3%	29.1%	29.2%	29.6%	29.9%	+1.6%
市全体		23.9%	24.7%	25.0%	25.4%	25.6%	+1.7%
75歳以上		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	H27⇒R元・増減
北部	白鳥	11.9%	12.8%	14.0%	15.3%	16.2%	+4.3%
	弥生	10.3%	11.0%	11.7%	12.4%	12.9%	+2.6%
	桜	10.2%	10.7%	11.1%	11.6%	11.8%	+1.6%
	日の出	6.0%	6.4%	7.0%	7.6%	8.3%	+2.3%
南部	大藤	12.3%	12.8%	13.3%	13.9%	14.5%	+2.1%
	栄南	14.5%	15.0%	16.2%	16.4%	16.8%	+2.3%
東部	十四山東部	13.7%	14.3%	14.5%	15.0%	15.5%	+1.8%
	十四山西部	14.1%	14.2%	14.3%	15.2%	15.4%	+1.4%

※資料：住民基本台帳（各年4月1日）

小学校位置図



2-1-3 通勤・通学による人口流動

- 通勤・通学による人口流動は、流出、流入ともに名古屋市が最も多く、次いで愛西市や津島市、蟹江町などが多くなっている。
- 平成22年と平成27年とを比較すると全体的に増加しており、流動傾向も同様となっている。

通勤・通学（15歳以上）による人口流動

順位	平成22年	流出		流入		計	
		人口(人)	割合	人口(人)	割合	人口(人)	割合
	弥富市内	9,143	38.1%	—	—	9,143	19.6%
1	名古屋市	6,147	25.6%	3,301	14.6%	9,448	20.3%
2	愛西市	910	3.8%	1,607	7.1%	2,517	5.4%
3	津島市	753	3.1%	974	4.3%	1,727	3.7%
4	蟹江町	633	2.6%	1,046	4.6%	1,679	3.6%
5	桑名市	699	2.9%	822	3.6%	1,521	3.3%
6	飛島村	1,025	4.3%	324	1.4%	1,349	2.9%
7	木曾岬町	376	1.6%	473	2.1%	849	1.8%
8	あま市	263	1.1%	530	2.3%	793	1.7%
9	四日市市	334	1.4%	233	1.0%	567	1.2%
10	稲沢市	221	0.9%	337	1.5%	558	1.2%
	その他	3,506	14.6%	12,907	57.2%	16,413	35.2%
	弥富市全体	24,010	100.0%	22,554	100.0%	46,564	100.0%

順位 変動	平成27年	弥富市から流出		弥富市へ流入		計		H22⇒H27 増減 (人)
		人口(人)	割合	人口(人)	割合	人口(人)	割合	
	弥富市内	9,577	39.2%	—	—	9,577	20.1%	+434
1 →	名古屋市	5,986	24.5%	3,733	16.0%	9,719	20.4%	+271
2 →	愛西市	1,045	4.3%	1,694	7.3%	2,739	5.7%	+222
3 →	津島市	925	3.8%	1,058	4.5%	1,983	4.2%	+256
4 →	蟹江町	665	2.7%	1,151	4.9%	1,816	3.8%	+137
5 →	桑名市	847	3.5%	996	4.3%	1,843	3.9%	+322
6 →	飛島村	1,110	4.5%	285	1.2%	1,395	2.9%	+46
7 →	木曾岬町	402	1.6%	441	1.9%	843	1.8%	-6
8 →	あま市	299	1.2%	540	2.3%	839	1.8%	+46
9 →	四日市市	375	1.5%	262	1.1%	637	1.3%	+70
10 →	稲沢市	240	1.0%	386	1.7%	626	1.3%	+68
	その他	2,942	12.1%	12,756	54.7%	15,698	32.9%	-715
	弥富市全体	24,413	100.0%	23,302	100.0%	47,715	100.0%	+1,151

※資料：各年国勢調査

2-2 主要施設の立地状況

2-2-1 医療施設

- 市内には入院治療が可能な第二次医療施設として、海南病院と偕行会リハビリテーション病院が立地している。
- その他の第一次医療施設などの診療所は、近鉄弥富駅付近から佐古木駅付近までの一般国道1号の南側に多く立地している。

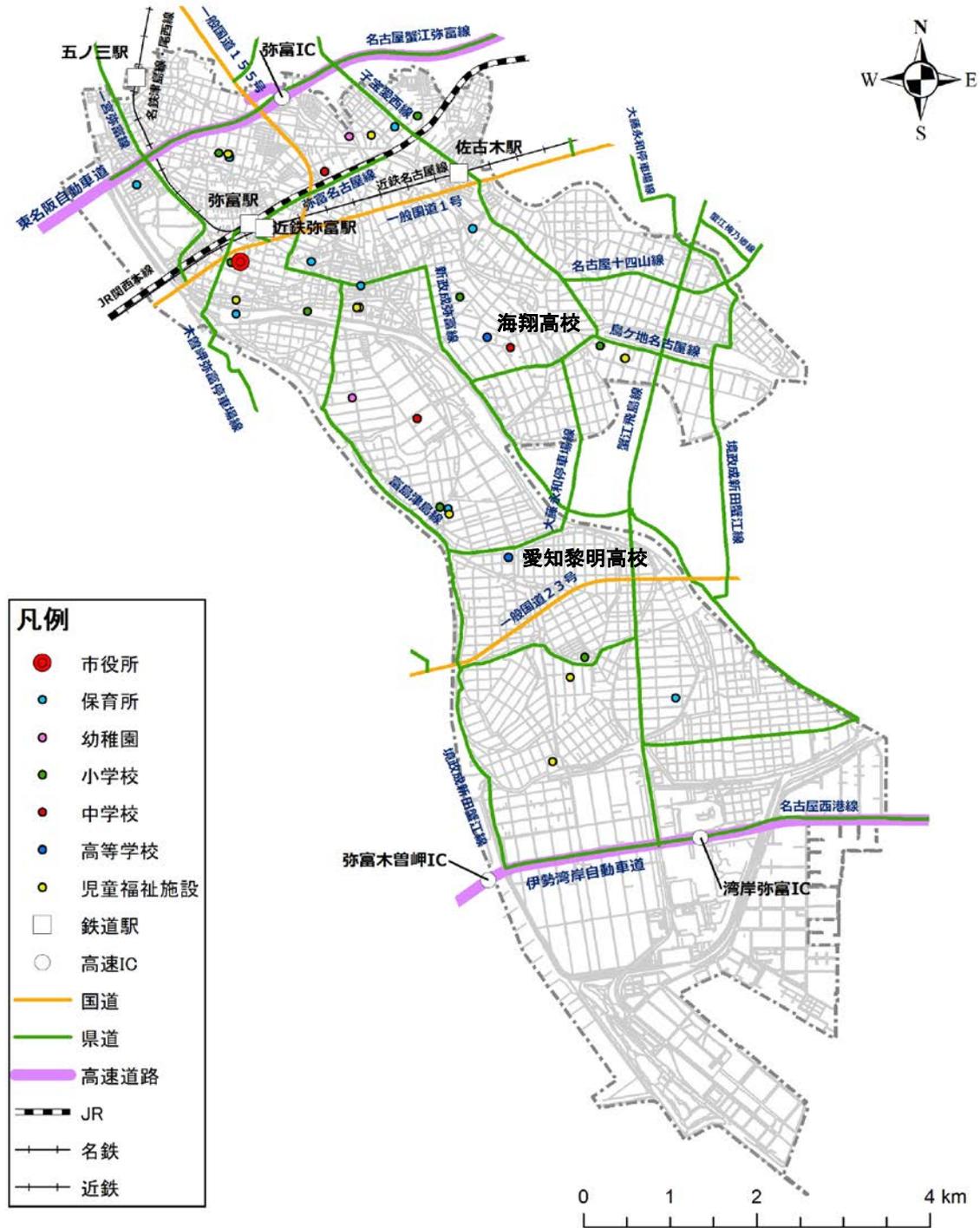
医療施設の立地状況



2-2-2 教育施設

- 市内には8つの小学校、3つの中学校のほか、2つの高校が立地している。

教育施設の立地状況



2-2-3 商業施設

- 市内には弥富駅北側のイオンタウン弥富や、市役所近くのウィングプラザパディーの2つのショッピングセンターのほか、一般国道1号線沿線などにスーパーマーケットが立地している。
- 南部地域や東部地域では商業施設が非常に少なくなっている。

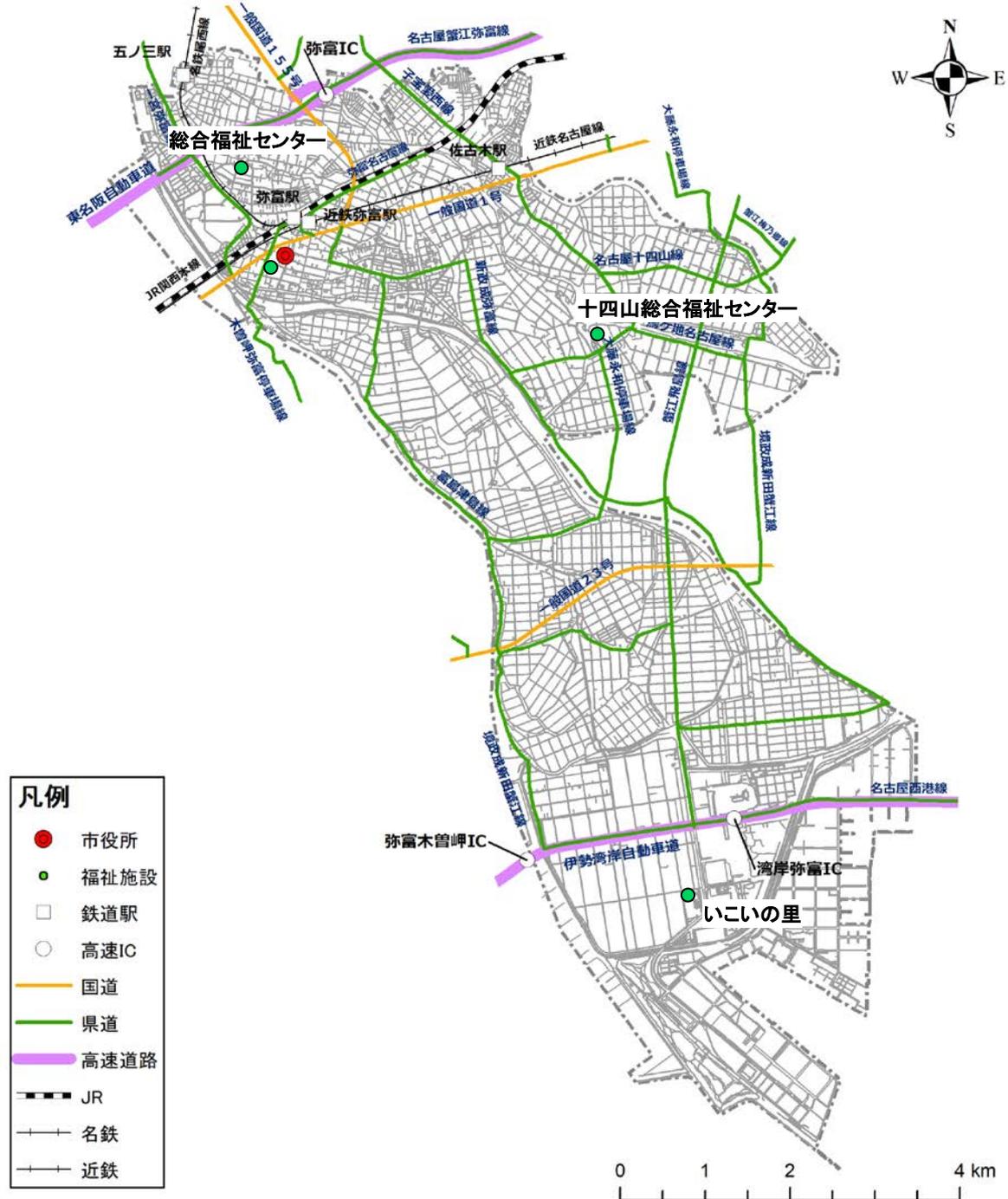
商業施設の立地状況



2-2-4 福祉施設

- 市内には温浴設備のある福祉施設として、北部地域に総合福祉センター、南部地域にいこいの里、東部地域に十四山総合福祉センターが立地している。

福祉施設の立地状況



2-2-5 行政施設

- 市内には市役所のほか、南部地域に鍋田支所、東部地域に十四山支所が立地している。

行政施設の立地状況



2-3 移動状況

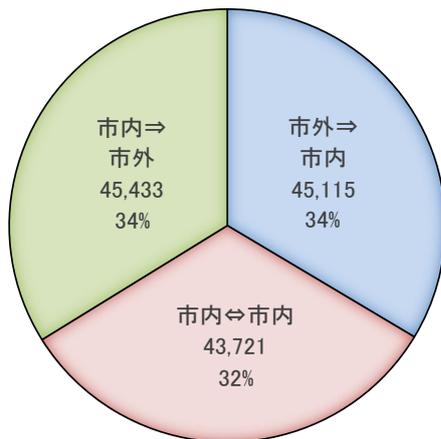
※資料：第5回中京都市圏パーソントリップ調査（平成23年）

2-3-1 市内移動

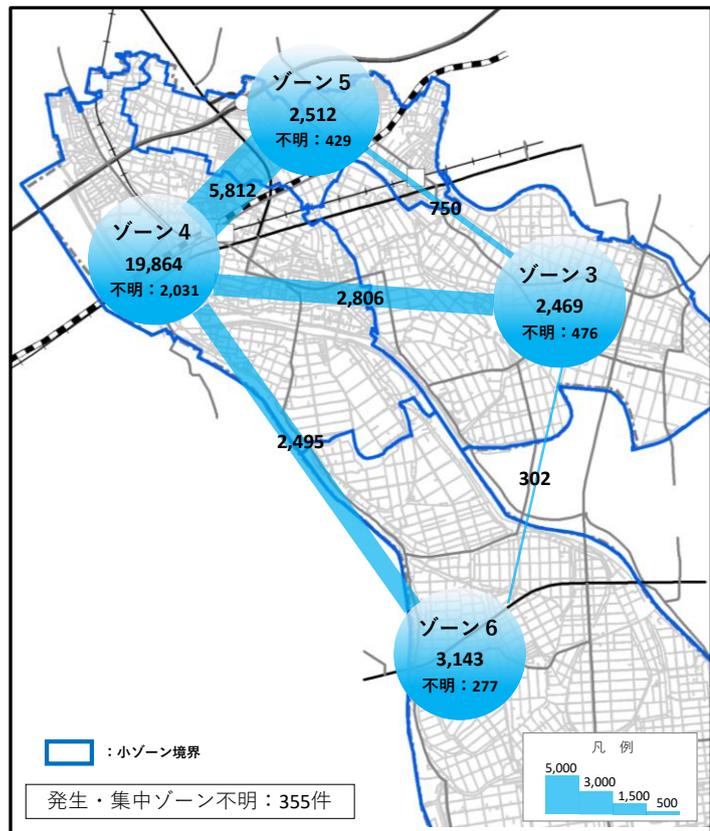
(1) 市内の移動量

- 市内⇔市内の移動は43,721件で全トリップの32%を占めている。
- ゾーン4内での移動が19,864件で市内移動の45%となっている。
- ゾーン間の移動で最も多いのがゾーン4⇔ゾーン5の5,812件、次いでゾーン4⇔ゾーン3の2,806件となっており、ゾーン4を中心とした移動が多い。

本市関連移動量



市内の移動状況

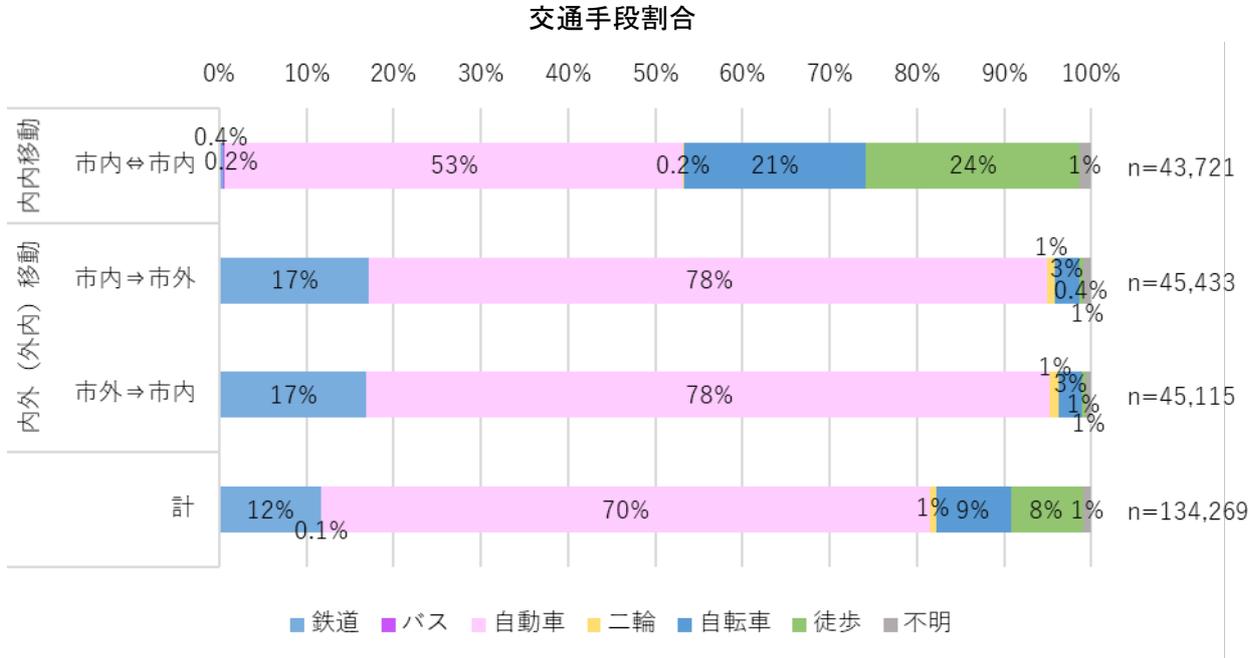


小ゾーンの該当町名

小ゾーン	該当町丁・字名
ゾーン3	榎場新田、馬ヶ地新田、海屋新田、上押萩1～2丁目、亀ヶ地1～2丁目、亀ヶ地新田、神戸新田、子宝新田、五斗山1～4丁目、坂中地1～5丁目、鮫ヶ地1～3丁目、下押萩1丁目、四郎兵衛1～2丁目、四郎兵衛新田、善太新田、竹田1～6丁目、鳥ヶ地新田、鍋平1～5丁目、西蜆1～2丁目、東蜆1～2丁目、六条新田
ゾーン4	鰺浦、海老江1丁目、鎌島、川平1丁目、川原欠、小島新田、五之三、五明、五明1～4丁目、中山、平島新田、平島中、平島西、平島東、前ヶ須新田、森津
ゾーン5	鎌倉新田、佐古木1丁目、佐古木新田、西中地、荷之上、東中地、前ヶ平、又八新田、楽平
ゾーン6	稲狐、稲元、稲吉、稲荷1～4丁目、稲荷崎、上野、栄南、大谷、大藤、加稲、加稲山、寛延、間崎、間崎1～3丁目、木曾岬干拓、狐地、楠1～3丁目、操出、駒野、境、三稲1～8丁目、芝井、富島、富浜1～5丁目、中原、鍋田、西末広1～5丁目、東末広、松名、三好

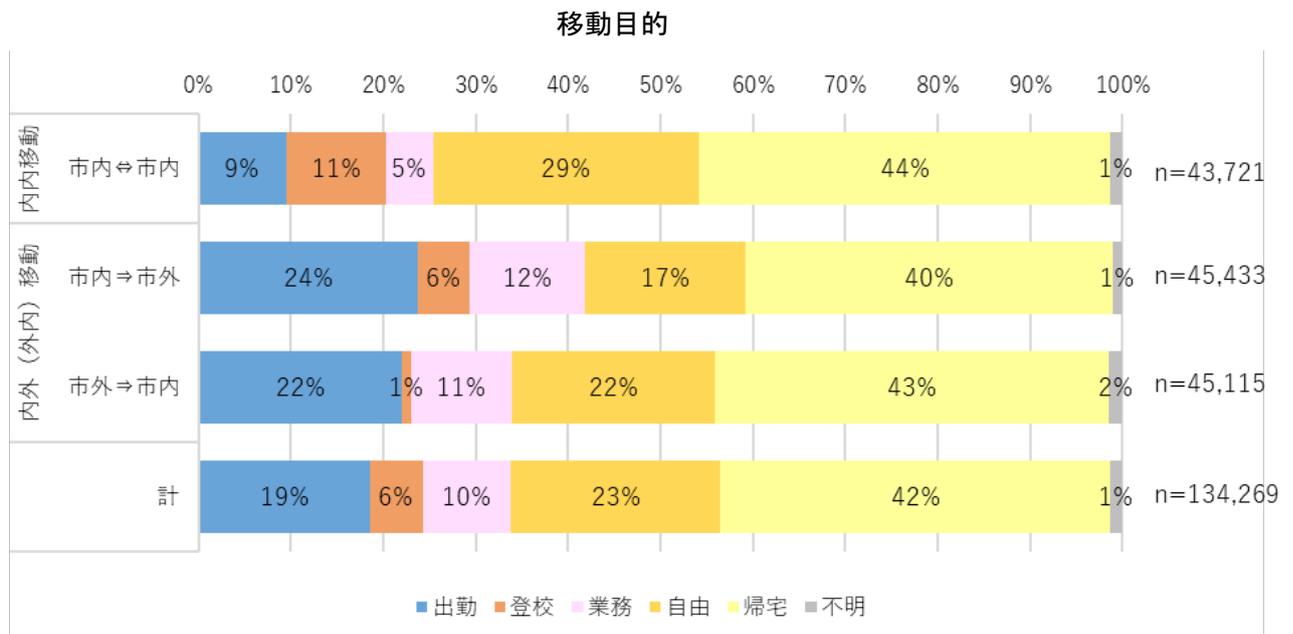
(2)交通手段割合

- 市内⇄市内、市内⇄市外移動とも移動手段は自動車が一番多くなっている。
- 市内⇄市外移動においては鉄道が17%と比較的多くなっている。
- 市内⇄市内においては、バスが0.2%となっている。



(3)移動目的

- 市内⇄市内、市内⇄市外とも移動目的は「帰宅」が一番多くなっている。
- 市内⇄市内では「自由」が多くなっており、市内⇄市外では「出勤」が多くなっている。

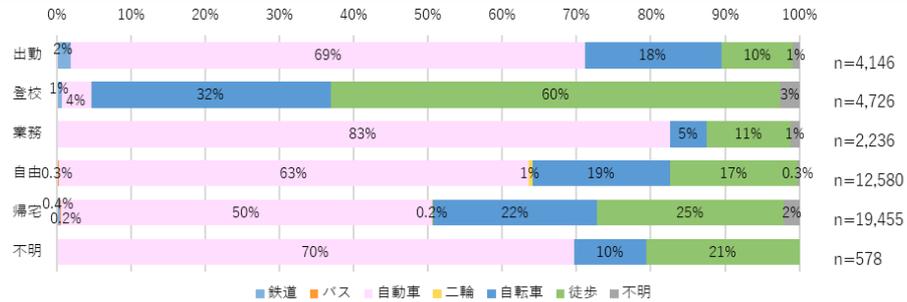


(4)目的別交通手段

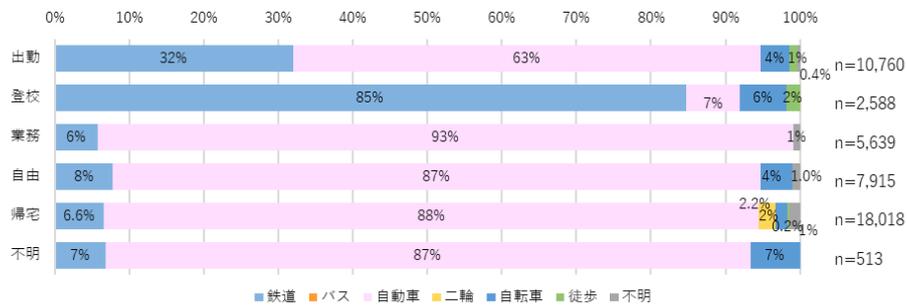
- 「登校」を除き、全体的に自動車の割合が高くなっている。
- バスは、市内⇔市内の「自由」で 0.3%、「帰宅」で 0.2%となっている。

目的別移動手段

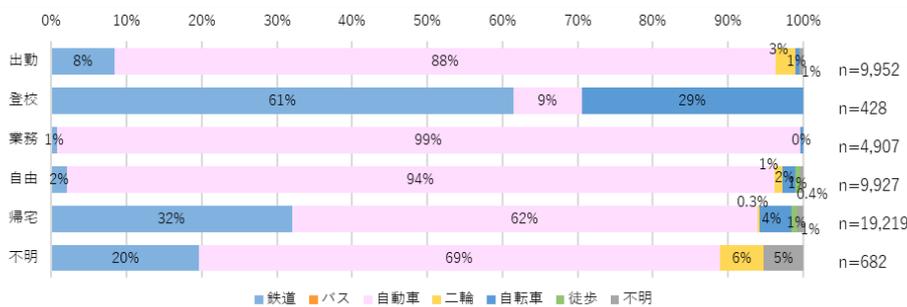
[市内⇔市内]



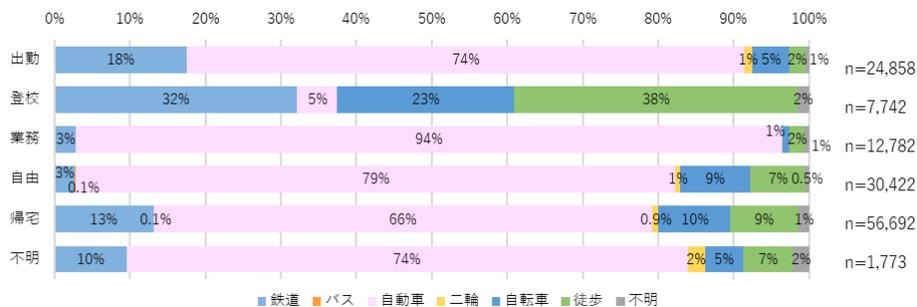
[市内⇒市外]



[市外⇒市内]



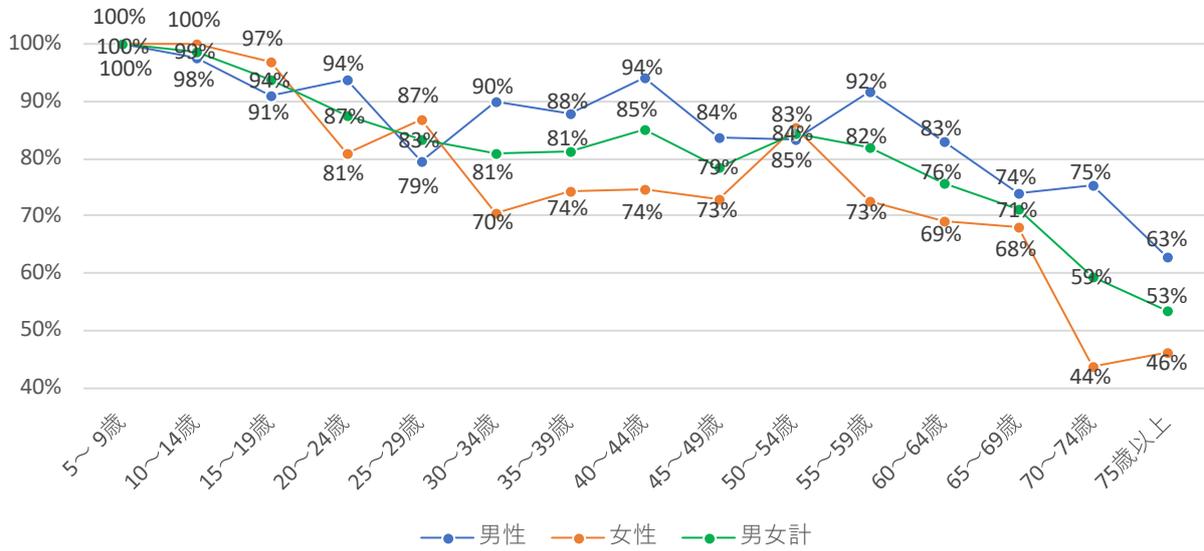
[全移動]



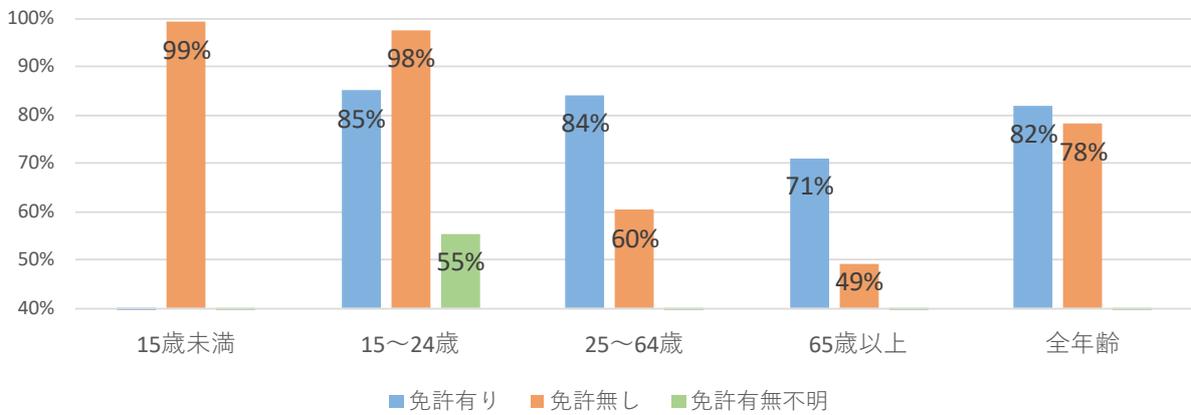
(5)年齢別外出割合

- 外出率は年齢が上がるほど低下していき、70歳以上から大きく下降している。
- 免許の有無別では「免許無し」の外出率が低くなっている。

年齢別外出率



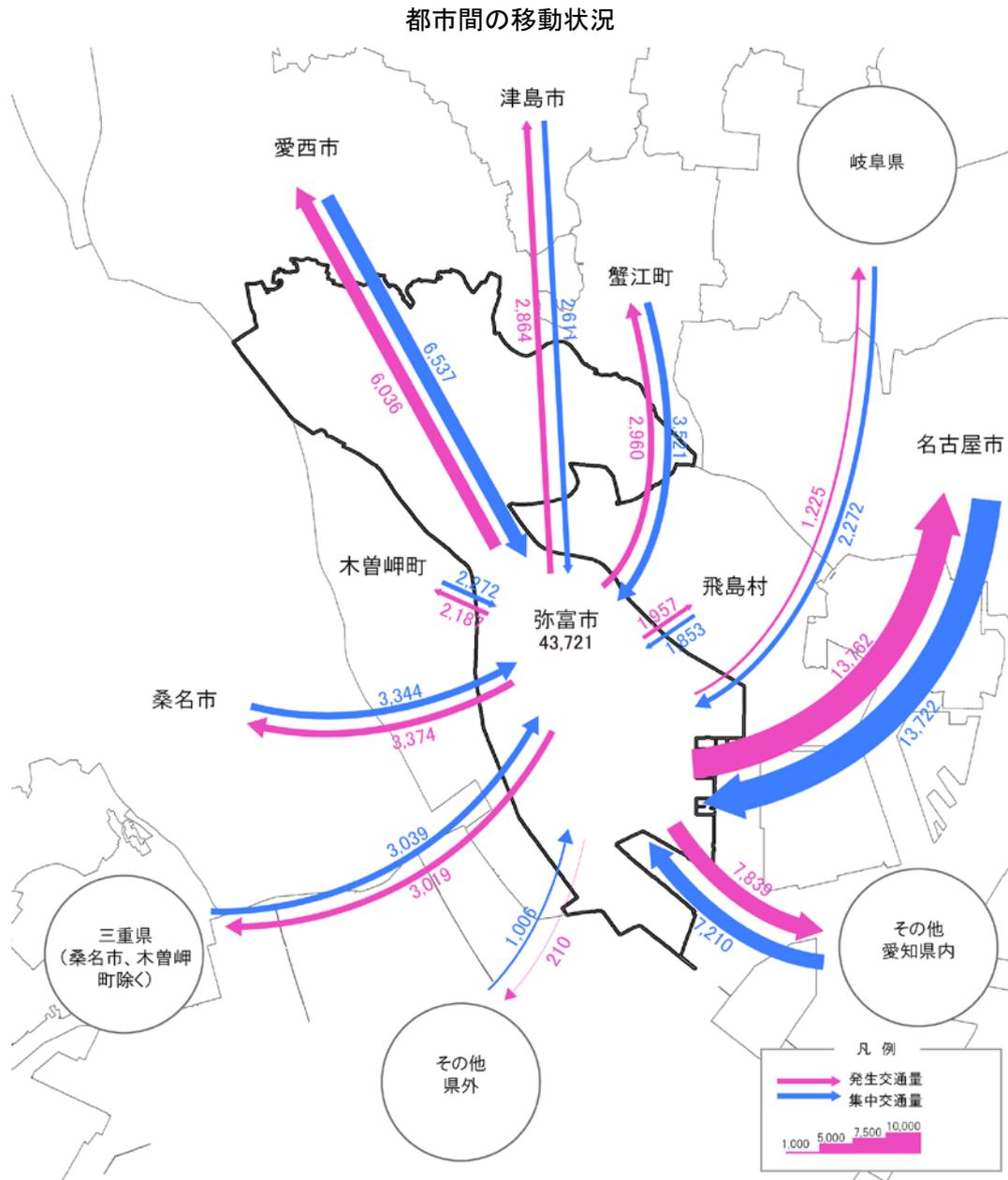
免許の有無別外出率



2-3-2 市外移動

(1) 都市間の移動量

- 本市の他都市との移動量は、名古屋市との移動が最も多く、次いで愛西市との移動が多くなっている。



(2) 都市別の移動手段

- 市内⇒市外への移動手段は、名古屋市や県外には「鉄道」が比較的多くなっているが、多くは「自動車」となっている。
- 市外⇒市内への移動手段は、名古屋市や桑名市からは「鉄道」が比較的多くなっているが、多くは「自動車」となっている。

